

「長野県の金融経済動向」（3月）の前回との比較

2017年3月

2017年2月

（総論）

長野県経済は、緩やかな回復基調にある。	長野県経済は、緩やかな回復基調にある。
---------------------	---------------------

（各論）

公共投資	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。
住宅投資	持ち直している。	持ち直している。
設備投資	緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢は幾分慎重化している。	緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢は幾分慎重化している。
個人消費	一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。	一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。
生産	新興国経済の減速の影響が和らぐもとで、持ち直している。	新興国経済の減速の影響が和らぐもとで、持ち直しつつある。
雇用・所得	着実な改善が続いている。	着実な改善が続いている。

1. 実体経済

（生産）

半導体関連・電子部品等	スマートフォン向けが幾分持ち直しているほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響が和らいでいることから、生産は持ち直している。	スマートフォン向けが幾分持ち直しているほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響が和らぎつつあることから、生産は持ち直しつつある。
自動車関連	海外需要が総じて堅調なほか、国内需要が新型車等を中心に底堅いことから、生産は持ち直しつつある。	海外需要が総じて堅調なほか、国内需要が新型車等を中心に底堅いことから、生産は持ち直しつつある。
機械・同関連部品等	工作機械は、北米での設備投資には足踏み感がみられているが、中国など新興国経済減速の影響が和らいでおり、生産は持ち直しつつある。計器は、建設機械向けなどで生産は持ち直している。バルブは、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響などが引き続きみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているが、中国などのIT向けを中心に弱さがみられる。	工作機械は、中国など新興国経済減速の影響が和らぎつつあるものの、北米での設備投資の増勢一服などから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。計器は、建設機械向けでみられた新興国経済減速の影響が和らぐもとで、持ち直しつつある。バルブは、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響などが引き続きみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているが、中国などのIT向けを中心に弱さがみられる。
飲料	生産は横ばい圏内で推移している。	生産は横ばい圏内で推移している。

(個人消費)

大型小売店 売上高	1月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。	12月是一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。
家電販売	1月は前年を下回った。	12月は前年を下回った。
自動車販売	2月は前年を上回った。	1月は前年を下回った。

(公共・住宅投資)

公共工事請負金額	1月は独立行政法人等の発注分が減少したものの、国、県、市町村の発注分が増加したことから、全体では前年を上回った。	12月は県、独立行政法人等の発注分が減少したものの、国、市町村の発注分が増加したことから、全体では前年を上回った。
住宅着工戸数	1月は貸家が減少したものの、持家、分譲が増加したことから、全体では前年を上回った。	12月は持家、分譲、貸家が増加したことから、前年を上回った。

(雇用・所得)

雇用・所得	有効求人倍率をみると、1月は新規求職者が増加したことから低下した。所得面では、12月は一人当り名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。	有効求人倍率をみると、12月は新規求人数が増加したことから、上昇した。所得面では、11月は一人当り名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。
-------	---	---

(物 価)

消費者物価 (除く生鮮食品)	1月は前年を上回った。	12月は前年並みとなった。
-------------------	-------------	---------------

2. 金 融

貸 出 金	1月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きがみられている。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。	12月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きがみられている。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。
預 金	1月は公金預金が前年を下回ったものの、法人預金、個人預金が前年を上回ったことにより、全体でも前年を上回った。	12月は公金預金が前年を下回ったものの、法人預金、個人預金が前年を上回ったことにより、全体でも前年を上回った。